

学習の手引き（平成31年度入学生用）

1. はじめに

建築学科は、地域の環境に調和し、地域の自然的、社会的、文化的特性に対応した空間計画技術に関する種々の問題を、多面的、総合的に研究、教育することを目的としている。したがって教育目標は、建築工学並びに建築学に基づいた応用分野全般について、広くかつ深い見識と研究能力を身につけた高度な技術者、研究者、教育者を養成することにある。

科学技術の進歩に伴う新しい材料、新しい構法が日々誕生する今日の状況の中で、信州の風土にとけ込んだ建築物、寒冷地の環境特性にかなった建築物がいかにあるべきかは、本学科にとって今後の重要な研究課題である。すなわち、都市空間を構成する駅や公園のあり方、集成材や鋼やアルミニウムの利用による新しい空間を構造的に研究すること、地震に対する震害予測と防災対策、寒冷地に適した住宅の開発、地球環境までも視野に入れた建物や都市空間の開発等は建築学的側面から検討を要する重要な課題である。

2. 学科構成

表 2－1

教 員	研 究 ・ 教 育 内 容
土本 俊和 教授 柳瀬 亮太 准教授 佐倉 弘祐 助教	地域環境を改善するために、建築物がいかに成立し、いかに計画されるべきかについて研究・教育を行う。また、人間と環境との相互作用、特に空間デザインに関わる考察を軸とする心的空間の理解について研究・教育を行う。
寺内 美紀子 教授 梅干野成央 准教授 羽藤 広輔 准教授	建築意匠について、その理論と、実践の方法について研究および教育を行う。
田守 伸一郎 教授 松田 昌洋 助教 遠藤 洋平 助教	安全性と合理性からみた建築物の設計について力学的な面、地域、建築物の防災面からの研究並びに教育を行う。
高村 秀紀 教授 岩井 一博 准教授 李 時桓 助教 中谷 岳史 助教	建築物並びに周辺地域の環境に関して、また建築物の各種設備の計画および機能に関する研究・教育を行う。

非常勤講師

堀内 信男講師 水寄 祐一講師	建築施工 建築法規
--------------------	--------------

3. 卒業に必要な単位数

学生は在学中に下記に示す単位数を修得しなければならない。

表 3 - 1 (平成31年度入学生用学生便覧抜粋)

建築学科

2019年度入学生(19T)

卒業要件表

～ 卒業・進級に必要な 授業科目 及び 単位数 ～

区 分		1 年 次 に修得を要する単位		2 年 次 に修得を要する単位		3 年 次 に修得を要する単位		4 年 次 に修得を要する単位		卒業要件 単位数
		内 容	単位数	内 容	単位数	内 容	単位数	内 容	単位数	
共通教育科目	教養科目	選択	「教養ゼミナール群」から2単位選択必修＊ 「環境科学群」から2単位選択必修＊ 「人文科学群」から2単位選択必修＊ 「社会科学群」から2単位選択必修＊ 「自然科学群」から2単位選択必修＊ 「体育・スポーツ群」 ◆教養科目以外で、この区分の単位に算入できるもの ・初修外国語科目(2単位以内) ……「人文科学群」へ算入可	15						15 (＊を含め、 15単位選択)
	外国語科目	必修	英語(フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ)	1	英語(アカデミック・イングリッシュⅠ)	2				8
			英語(フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ)	1						
			英語(コミュニケーション・イングリッシュⅠ)	1	英語(アカデミック・イングリッシュⅡ)	2				
			英語(コミュニケーション・イングリッシュⅡ)	1						
	健康科学科目	必修	健康科学・理論と実践	1						1
	新入生ゼミナール科目	必修	新入生ゼミナール(建築ゼミナール) ＜履修については学科の指導によること。＞	2						2
	基礎科学科目	必修	数学(微分積分学Ⅰ)	2	数学(線形代数学Ⅱ)	2				10
			数学(微分積分学Ⅱ)	2						
			数学(線形代数学Ⅰ)	2						
			物理学(力学)	2						
		選択	化学(一般化学Ⅰ)	2	物理学(波動と光)	2				2
			生物学(生物学A)	2						
			生物学(生物学B)	2						
			地学(地学概論Ⅰ)	2						
			地学(地学概論Ⅱ)	2						
	日本語・日本事情科目	選択	＜外国人留学生対象科目＞	—						(※1)
	計			32	6	0	0			38

建築学プログラム

※他教育プログラム科目全て除く

専門科目	エンジニアリング科目	必修	学科共通科目5単位	5	エンジニアリング科目4単位 学部共通科目1単位 学科共通科目38単位	43	卒業研究	10	58
	学部共通科目	選択必修		0	プログラム科目19単位 (配属プログラム) 選択必修科目4単位	23		0	23
	学科共通科目	選択		0	2～3年次対象 (選択必修科目を含む)	<5>	<4年次対象 科目あり>	<0>	5 (※2)
	計			5		71		10	86
合 計			1 年 次 に修得を要する単位数	37	2～3年次 に修得を要する単位数	77	4年次 に修得を要する 単位数	10	124

工芸デザインプログラム

※他教育プログラム科目全て除く

専門科目	エンジニアリング科目	必修	学科共通科目5単位	5	エンジニアリング科目4単位 学部共通科目1単位 学科共通科目38単位	43	卒業研究	10	58
	学部共通科目	選択必修		0	プログラム科目17単位 (配属プログラム) 選択必修科目4単位	21		0	21
	学科共通科目	選択		0	2～3年次対象 (選択必修科目を含む)	<7>	<4年次対象 科目あり>	<0>	7 (※2)
	計			5		71		10	86
合 計			1 年 次 に修得を要する単位数	37	2～3年次 に修得を要する単位数	77	4年次 に修得を要する 単位数	10	124

履修登録上限単位数	1年次:前期24単位、後期24単位	2年次～4年次:通年48単位
-----------	-------------------	----------------

卒業要件表

～ 卒業・進級に必要な 授業科目 及び 単位数 ～

2年次への 進級要件	2年次への進級関門は設けていないが、1年次の修得単位が極端に少ない場合は、松本キャンパスに引き続き在留して1年次の授業科目を履修することを勧告する。
3年次への 進級要件	3年次への進級関門は設けていない。
4年次への 進級要件	【建築学プログラム】 1～3年次に修得を要する全単位のうち、以下の全ての条件を満たしていること。 ①110単位以上を修得 (教職科目および卒業要件外となる科目の単位は含めない) ②修得指定科目 「建築・デザイン工学設計製図Ⅰ」 「建築・デザイン工学設計製図Ⅱ」 「建築設計製図Ⅰ」 「建築設計製図Ⅱ」 以上4科目すべて修得 【工芸デザインプログラム】 1～3年次に修得を要する全単位のうち、以下の全ての条件を満たしていること。 ①110単位以上を修得 (教職科目および卒業要件外となる科目の単位は含めない) ②修得指定科目 「建築・デザイン工学設計製図Ⅰ」 「建築・デザイン工学設計製図Ⅱ」 「工芸デザイン製図Ⅰ」 「工芸デザイン製図Ⅱ」 以上4科目すべて修得

※1 外国人留学生が、日本語・日本事情の科目を修得した単位については、教養科目又は外国語科目のいずれかの履修すべき単位数に算入することができる。なお、算入については学科の指導による。

※2 他学科の授業科目(応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、応用数学Ⅲ、確率・統計、電磁気学、物理学実験を除く。)及び他学部の授業科目は、合わせて10単位を越えない範囲で選択科目に加えることができる。

4. 講義

(1) 専門科目一覧

表4-1 建築学科専門科目一覧表（平成31年度入学生用学生便覧抜粋）

建築学科

2019年度入学生(19T)

専門科目 一覧表

■対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

■形態は、講義・演習・実験等が複合的に実施される科目もある。(シラバス要確認)

区分	登録コード (下2桁の 数字は履修 案内参照)	科目名	GPA 対象 科目	形態	必修 ／ 選択	単 位 数	対象学年・開講学期								備考	教職 教科・ 66条 のみ
							1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
							前	後	前	後	前	後	前	後		
学部共通科目	T00013	技術者倫理	○	講義	必修	1					○	○				
	T00022	量子物理	○	講義	選択	2			○		○		○			
	T00032	現代天文学	○	講義	選択	2				○		○		○		
	T00044	経営工学	○	講義	選択	2							○			
	T00054	現代技術論	○	講義	選択	2								○		
	T00063	特許実務概論	○	講義	選択	2					○					
	T00073	環境マネジメントシステム	○	講義	選択	2					○					
	T00082	地域環境演習Ⅰ	○	演習	選択	1			○		○		○			
	T00092	地域環境演習Ⅱ	○	演習	選択	1			○		○		○			
	T00102	環境内部監査実務	○	講義	選択	2				○		○		○		
	T00113	環境政策概論	○	講義	選択	2					○					
	T00124	先鋭研究特別講義	○	講義	選択	2							○			
	T00132	ボランティア特別実習Ⅰ	×	実習	選択	1			○		○		○		※	
	T00142	ボランティア特別実習Ⅱ	×	実習	選択	1			○		○		○		※	
	T00153	航空機システム概論	×	講義	選択	2						○			※	
リ ン グ ニ ュ ー ス 目 録	T90012	物質化学概論	○	講義	必修	1			○	○						Ⅰ
	T90022	電子情報システム概論	○	講義	必修	1			○	○						Ⅰ
	T90032	水環境・土木工学概論	○	講義	必修	1			○	○						Ⅰ
	T90042	機械システム概論	○	講義	必修	1			○	○						Ⅰ
学科共通科目	T00512	応用数学Ⅰ	○	講義	必修	2			○							
	T00542	確率・統計	○	講義	必修	2				○						
	T50032	建築計画	○	講義	必修	2			○							Ⅰ
	T50042	日本建築史	○	講義	必修	2			○							Ⅰ
	T50053	保存再生論	○	講義	必修	2					○					Ⅰ
	T50062	建築環境工学Ⅰ	○	講義	必修	2			○							Ⅰ
	T50072	建築環境工学Ⅱ	○	講義	必修	2				○						Ⅰ
	T50083	建築設備Ⅰ	○	講義	必修	2					○					Ⅰ
	T50093	建築設備Ⅱ	○	講義	必修	2						○				Ⅰ
	T50102	建築エネルギーマネジメント	○	講義	必修	2				○						Ⅰ
	T50113	プロダクトマネジメント論	○	講義	必修	2						○				Ⅰ
	T50122	建築構造力学Ⅰ	○	講義	必修	2			○							Ⅰ
	T50132	建築構造力学Ⅰ 演習	○	演習	必修	1			○							Ⅰ
	T50142	建築構造力学Ⅱ 演習	○	演習	必修	1				○						Ⅰ
	T50153	鋼構造	○	講義	必修	2						○				Ⅰ
	T50162	建築構造力学Ⅱ	○	講義	必修	2				○						Ⅰ
	T50173	鉄筋コンクリート構造	○	講義	必修	2					○					Ⅰ
	T50182	建築材料	○	講義	必修	2				○						Ⅰ
	T50191	設計基礎Ⅰ	○	講義	必修	2	○									Ⅰ・66
	T50201	設計基礎Ⅱ	○	講義	必修	2		○								Ⅰ
	T50211	設計基礎演習	○	演習	必修	1		○								Ⅰ
	T50222	建築・デザイン工学設計製図Ⅰ	○	演習	必修	2			○							Ⅰ
	T50232	建築・デザイン工学設計製図Ⅱ	○	演習	必修	2				○						Ⅰ
	T50244	卒業研究	○	演習	必修	10							○			
	T00572	物理学実験	○	実験	選択	1			○	○	○	○	○	○		
	T00522	応用数学Ⅱ	○	講義	選必	2				○					3科目の うち 2科目 選択必修	
	T00533	応用数学Ⅲ	○	講義	選必	2					○					
	T00562	解析力学	○	講義	選必	2			○							
	T50322	建築施工	○	講義	選択	2				○		○				

2019年度入学生(19T)

専門科目 一覧表

■対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

■形態は、講義・演習・実験等が複合的に実施される科目もある。(シラバス要確認)

区分	登録コード (下2桁の 数字は履修 案内参照)	科目名	GPA 対象 科目	形態	必修 ／ 選択	単位 数	対象学年・開講学期								備考	教職 教科・ 66条 のみ	
							1年次		2年次		3年次		4年次				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
学科 共通科目	T50332--	建築法規	○	講義	選択	1				○		○					
	T50344--	建築・デザイン工学設計製図Ⅲ	○	演習	選択	2							○				Ⅰ
	T50352--	学外特別講義Ⅰ	×	講義	選択	2			○		○		○				
	T50362--	学外特別講義Ⅱ	×	講義	選択	2			○		○		○				
	T50372--	学外特別講義Ⅲ	×	講義	選択	2			○		○		○				
	T50382--	学外特別実習	×	実習	選択	1			○		○		○			※	
	T0Q019--	生物学実験	×	実験	選択	1			○		○		○			※	
T0Q029--	地学実験	×	実験	選択	1			○		○		○			※		
プログラム 科目	T5A013--	建築環境工学実験	○	実験	選必	1					○				●		Ⅰ
	T5A023--	建築地盤工学	○	講義	選必	2					○				●		Ⅰ
	T5A033--	建築構造材料実験	○	実験	選必	1						○			●		Ⅰ
	T5A043--	都市計画史	○	講義	選必	2					○				●		Ⅰ
	T5A053--	建築設備演習	○	演習	選必	1						○			●		Ⅰ
	T5A063--	建築耐震設計	○	講義	選必	2					○				●		Ⅰ
	T5A072--	建築構法	○	講義	選必	2			○						●		Ⅰ
	T5A083--	地域計画	○	講義	選必	2						○			●		Ⅰ
	T5A092--	西洋建築史	○	講義	選必	2				○					●		Ⅰ
	T5A103--	建築設計製図Ⅰ	○	演習	選必	2					○				●		Ⅰ
	T5A113--	建築設計製図Ⅱ	○	演習	選必	2						○			●		Ⅰ
	T5B013--	工芸デザイン製図Ⅰ	○	演習	選必	2						○			▲		Ⅰ
	T5B023--	工芸デザイン製図Ⅱ	○	演習	選必	2							○		▲		Ⅰ
	T5B033--	現代デザイン学	○	講義	選必	2						○			▲		Ⅰ
	T5B033--	現代デザイン学演習	○	演習	選必	1						○			▲		Ⅰ
	T5B053--	インタラクティブデザイン学	○	講義	選必	2					○				▲		Ⅰ
	T5B063--	インタラクティブデザイン学演習	○	演習	選必	1					○				▲		Ⅰ
	T5B073--	美術・デザイン史	○	講義	選必	2						○			▲		Ⅰ
	T5B083--	プロダクトマネジメント演習	○	演習	選必	1						○			▲		Ⅰ
	T5B093--	プロダクトコーディネイト学	○	講義	選必	2						○			▲		Ⅰ
	T5B103--	デザイン心理	○	講義	選必	2						○			▲		Ⅰ

備考欄に「●」を付した選択必修科目は建築学プログラム必修科目

備考欄に「▲」を付した選択必修科目は工芸デザインプログラム必修科目

備考欄に「※」を付した選択科目は卒業要件外(卒業・進級に必要な単位に算入することはできない)

(2) 講義内容

詳細は、HPのシラバスを参照して下さい。

<https://campus-2.shinshu-u.ac.jp/syllabus/syllabus.dll/top>

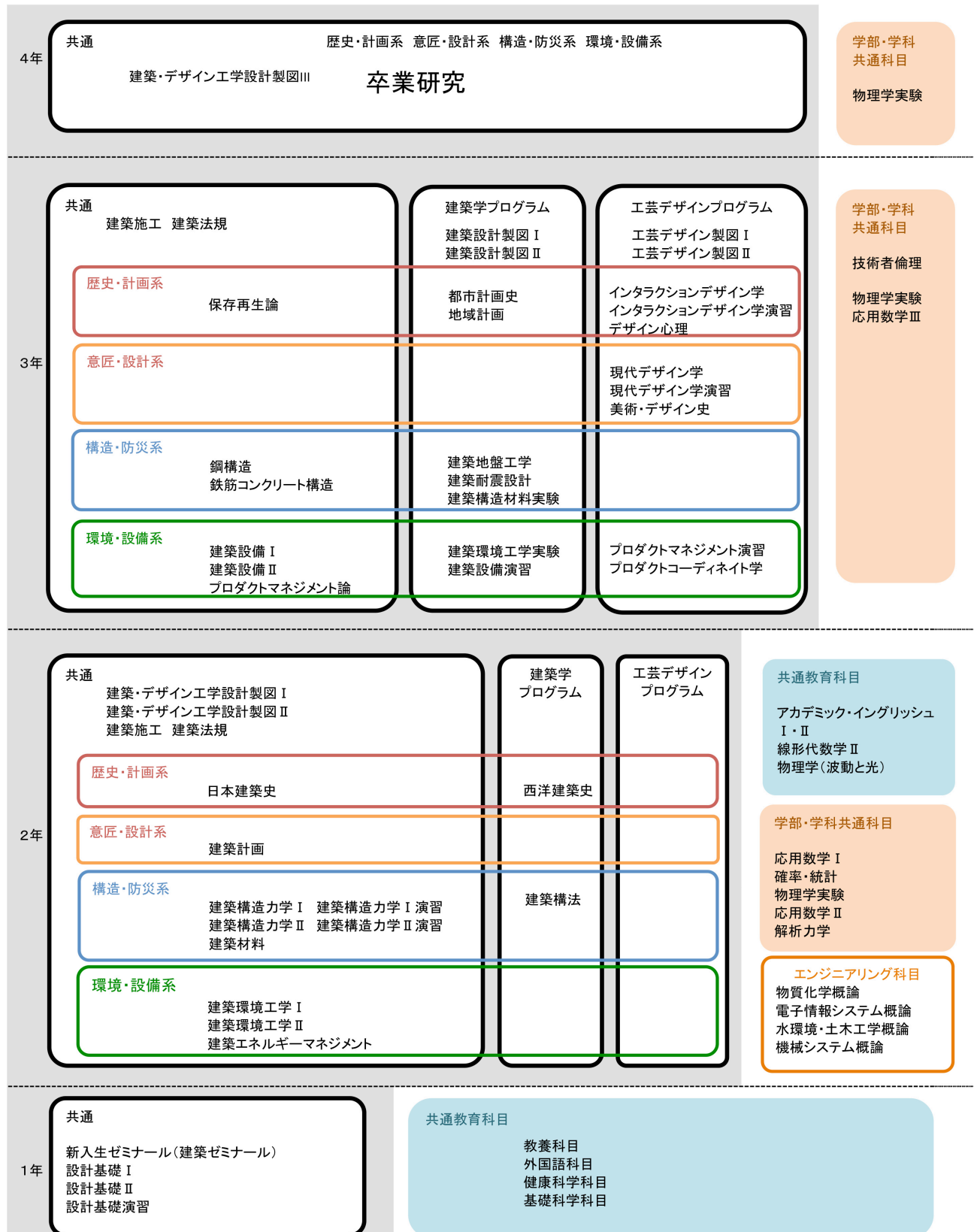
(3) 専門教育科目の関連について

建築学科の専門教育科目は、工学基礎および歴史・計画系、意匠・設計系、構造・防災系、環境・設備系、建築設計の5つの分野に大別できます。これらの関係は、図4-1に示すように、数学、物理学などを基礎として、歴史・計画系、意匠・設計系、構造・防災系、環境・設備系の建築学における4つの分野の専門教育科目が用意され、これらの理論・技術体系を総合化する科目として建築設計が位置づけられます。図4-1には履修チャートを示します。

建築学科

2019年度入学生(19T)

<履修チャート>



※これは卒業要件の履修チャートです。教職課程については後頁の「教職課程履修の手引」をご覧ください。

図4-1 履修チャート(平成31年度入学生用学生便覧抜粋)

5. 相談の窓口

主任 : 高村教授
学務担当 : 梅干野准教授
環境・ISO担当 : 遠藤助教
1 年次クラス担任 : 佐倉助教, 柳瀬准教授
2 年次クラス担任 : 中谷助教
3 年次クラス担任 : 李助教
就職担当 : 高木特任教授 (高村教授)

健康管理について

メンタルヘルスのためにカウンセリングを行っています。相談にあたる先生方はカウンセリングの専門家です。「自分がなにをしたいのか分からない」とか「こんなことをしていていいのだろうか」など少しでも思い悩むことがあったら遠慮なく相談して下さい。

表5-1 相談の窓口

施 設	直 通
健康安全センター (松本)	0 2 6 3 - 3 7 - 2 1 5 7
工 学 部 保健室	0 2 6 - 2 6 9 - 5 0 7 7
学生なんでも相談窓口	nandemo@jm.shinshu-u.ac.jp 0 2 6 3 - 3 7 - 3 1 6 5

6. 注意事項

- (1) 講義室および室内設備の使用の際は、管理者(建築学科職員)の許可を得ること。また使用後は報告すること。原則として使用時間は9時から17時までとする。また、授業期間以外及び同期間の夜間の製図室は節度をもって使用するものとし、使用や管理について設計授業担当助教の指導に従うこと。以下の(5)参照。
- (2) 入学時に学籍情報入力票に連絡先を記入し提出する。今後、住所や連絡先が変わったときは、キャンパス情報システムより、内容を訂正すること。
- (3) 定期健康診断(身体測定, X線撮影, 内科検診)を実施している(4月~6月ごろ)ので必ず受けること。就職や進学のためには健康診断書が必要なる。未受検者で健康診断書が必要なものは、各自、医療機関で診断を受けること(費用は自己負担となる)。
- (4) 自動車の入構は原則として認めない。車で入構する場合必要のある場合は前もって学務係で所定の書類により申し込む。荷物などの運搬のために建築棟周辺に一時的に駐車するときは、建築学科事務室にその旨を連絡する。その際、建築棟東側の身障者用駐車場の使用の妨げになってはならない。
- (5) 製図室は学生自らが整理整頓と事故防止に努めて使用しなくてはならない。各課題提出時に定期の清掃を行うので、履修者は全員参加すること。また、授業時間以外及び夜間の使用による整理清掃は、設計授業担当助教の指導のもと、使用した者が自主的におこなうこととする。

7. 進学と就職

(1) 大学院進学

学部卒業後、さらに研究を深めることを主たる目的として、大学院へ進学することができる。座学を中心とした学部の授業と異なり、大学院での授業は様々な問題を解決するために必要なプロジェクトを学生自ら遂行するものであり、建築技術者として大きく成長することができる場である。また日本建築学会などの学会発表を経験することも人間力を高める場になっている。こうしたことから近年は学部卒業生の50%から60%が大学院に進学している。

修士課程(修業年限2年)は、所定の単位数を修得し、学位論文の審査と最終試験に合格すると、修士(工学)の学位が授与される。在学中にインターンシップを主とした所定の単位数を修得した場合には、一級建築士試験受験資格の実務経験1年に認定される。博士課程(修業年限3年)は、所定の単位数を修得し、学位論文の審査と最終試験に合格すると、博士(工学または学術)の学位が授与される。特に秀でた研究成果・成績を修めたと認められると、修業年限がそれぞれ1年間短縮される制度もある。

修士課程、博士課程進学のための選考方法としての一般選抜は大学ホームページを参照すること。

(2) 就職について

建築は、ものづくりの現場であり、総合的なプロジェクトであることを理解する必要がある。主として設計・構造・設備の分野における設計・施工に関わる総合建設業、設計事務所、メーカーなどがあり、不動産会社や鉄道会社などのデベロッパー、その他公務員や評価・研究機関など、就職先は多岐に渡る。就職することはゴールではなく、就職先での仕事を通じて、社会に貢献していくことが、喜び、やりがい、そして報酬を受け取ることになるという基本原則を忘れてはいけない。社会に貢献できない人間は会社にとっては不要の人材である。社会に貢献できる人材になる

ために、学業のみならず、課外活動や社会的生活も含めての、学部、大学院での様々な経験で人間として成長することが求められる。

最近の就職活動はインターネットでのエントリーが中心となってきたが、本学科内で説明会を実施している会社も多い。業界説明会や会社説明会は本学科の卒業生が担当する場合が多く、東京、大阪などで実施される説明会に比べて、より身近な雰囲気の中で開催されている。社会で仕事をしていくことに対する、不安やわからないことなども先輩であれば、本音で話ができる機会であり、学生がこのような機会を利用して参加することを期待している。本学科では就職該年度の学部生と大学院生全員に加えて、大学院に進学予定の4年生、2年生のように、直近に就活時期を迎えない学生に対してメール網を作成し、就職担当宛に来る会社側からの説明会情報、求人情報を知らせている。One day インターンシップなどの案内も多くなっており、これらの情報は建築棟1階の掲示板を中心に伝達されている。また工学部就職支援室が2月下旬に主催している合同会社説明会は居ながらにして、多くの情報を得ることができる場であり、会社にとっても優秀な学生を探すための重要な日程であり、就職を希望する学生は出席するよう心掛けてほしい。近年就活の時期が前倒し傾向である。上記合同説明会は3年生、M1生にとっての会社を知る機会であるが、実際問題としては、すでにこの時期は就活が始まり、会社に呼び出されたりする拘束が始まっていることが多くなっている。その意味からは2年生、大学院進学の4年生にとっての会社を知る機会ととらえることも妥当である。就職のイメージを持たない学生が、白紙の状態ですできるだけ多くの企業の説明を受けることで、1年後の就活の前に自分自身の考え方を整理する為に活用して欲しい。そして、その経験を夏以降のインターンシップにつなげ、さらに自分自身の方向性を確定させていくことが最善の就活だと考える。

十分な勉学は学生の就職・将来に大きくかかわる。学部・大学院で修得する基礎知識や専門知識は将来の業務で必要とされる技術の基礎となる。大学で新しい技術の理解力・課題解決能力を涵養することにより、技術者としての長い人生の基盤が築かれる。建築に対する意欲や好奇心と技術へのチャレンジ・スピリッツは建築技術者として成長するために重要である。

また、経済のグローバル化に伴い、海外での事業展開が多くなってきた。全国で事業を行っている大手の企業などはその傾向が顕著であり、英語によるコミュニケーションが求められている。そのためにも日本語におけるコミュニケーション力が重要であり、SNSに頼ることなく、家族や友人との会話の機会を大切にしていきたいものである。また家族・友人以外の大人と話す機会はコミュニケーション力を高める大変良い機会である。積極的に取り組んでほしい。建築の仕事は一人では完結することではなく、関連する企業や部署とかかわりながら進める仕事である。コミュニケーションは建築の仕事の基礎であり、当然就職活動にも必須である。

表 7-3 平成 30 年度の就職者数

職 種	4年次	院2年
総合建設業	9 (2)	10 (1)
設備	1 (0)	3 (0)
設計事務所	1 (0)	5 (3)
ハウスメーカー	4 (2)	2 (0)
不動産	0 (0)	1 (1)
製造・建材	0 (0)	1 (0)
サービス	1 (1)	1 (0)
研究所	0 (0)	0 (0)
その他	3 (1)	1 (1)
公務員	4 (0)	3 (3)
休学	2 (0)	1 (0)
留年	0 (0)	0 (0)
未定・その他	0 (0)	4 (0)
進学	26 (3)	1 (1)
計	51 (9)	33 (10)

()内は女子

表 7-4 平成 30 年度の求人数

職 種	数
総合建設業	55
設備	30
設計事務所	15
ハウスメーカー	1
製造・建材	28
一般・その他	26
ソフトウェア	3
公務員	12
計	170

(3) 取得できる資格(受験資格)

1. 一級建築士

◇指定科目の単位取得により、卒業後、実務経験2年以上で受験資格。なお、指定科目を修得すれば、大学院修士課程のうちの1年は実務経験と見なされる。

※実務経験については、制度の変更が予定されている。詳しくは下記URLを参照。

http://www.jaeic.or.jp/other_info/2018kaisei.html

2. 二級建築士
◇指定科目の単位取得により、卒業後、受験資格。
3. 木造建築士
◇指定科目の単位取得により、卒業後、受験資格。
4. インテリアプランナー
◇誰でも受験可能。
5. 技術士
◇卒業後、実務経験7年以上で受験資格。
6. 高等学校教諭一種免許状（工業）
◇卒業に必要な履修単位に加え、別に定める所定の単位の履修が必要。詳しくは、学生便覧参照。
7. 学芸員
◇博物館学芸員の資格を取得するには、学士の称号を与えられることに加え、下記の単位を修得しなければならない。

※6、7については、大学院でも受講可能。詳しくは、学務係で確認のこと。

博物館法施行規則に定められた科目	単位数	左記に対応する本学の授業科目	単位数	履修年次
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1～3
博物館概論	2	博物館概論	2	1～3
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2～3
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2～3
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2～3
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2～3
博物館教育論	2	博物館教育論	2	1～3
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	1～3
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1	3
		博物館実習Ⅱ	1	4
		博物館実習Ⅲ	1	4

8. その他
一級施工管理技士 二級施工管理技士
技術士補
測量士補
宅地建物取引主任者
土地家屋調査士
環境計量士 など

（４） 建築士受験資格について

平成 21 年度入学生（学部、大学院とも）から、指定科目の単位取得が建築士の受験に必須となりました。詳細は 2 年生ガイダンスで説明します。

（4）-1 大学卒業後、実務2年ののち一級建築士試験の受験資格を得ようとする場合

1. 卒業時に卒業証明書と一級建築士試験指定科目修得証明書を発行するので、これらの書類を添えて認定機関に受験申請する。
2. 表(4)-1-1 及び表(4)-1-2 の認定科目の中から丸数字で示した各分野（①～⑩）で所定の単位数（括弧内の数字）が必要となる。
3. 表(4)-1-1 及び表(4)-1-2 の指定科目の総合計が 60 単位以上であることが必要となる。
4. 大学院で指定科目から所定の単位数（15 単位以上）を修得すると、必要な実務期間は 1 年に短縮できる。

※実務経験については、制度の変更が予定されている。詳しくは下記URLを参照。

http://www.jaeic.or.jp/other_info/2018kaisei.html

表(4)-1-1 信州大学工学部建築学科 建築学プログラム における認定科目 (平成 31 年度入学用)

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として申請する開講科目				
二級・木造	一級	分類 番号	科目名	履修学年	必修・選択	単位 数
①建築設計 製図 実務0～2年 (5単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	①建築設計 製図 (7単位以上)	①	設計基礎演習	1	必修	1
		①	建築・デザイン工学設計製図Ⅰ	2	必修	2
		①	建築・デザイン工学設計製図Ⅱ	2	必修	2
		①	建築・デザイン工学設計製図Ⅲ	4	選択	2
		①	建築設計製図Ⅰ	3	必修	2
		①	建築設計製図Ⅱ	3	必修	2
		①	工芸デザイン製図Ⅰ	3	選択	2
		①				
		①				
単位数小計	単位数小計	①				
13	13	①				
②～④ 建築計画, 建築環境工 学又は建築 設備 実務0～2年 (7単位以上) 実務3～5年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	②	建築計画	2	必修	2
		②	日本建築史	2	必修	2
		②	保存再生論	3	必修	2
		②	西洋建築史	2	必修	2
		②	デザイン心理	3	選択	2
		②	現代デザイン学	3	選択	2
		②	現代デザイン学演習	3	選択	1
		②				
		②				
		②				
		②				
		13	②			
	③建築環境 工学 (2単位以上)	③	建築環境工学Ⅰ	2	必修	2
		③	建築環境工学Ⅱ	2	必修	2
		③	建築環境工学実験	3	必修	1
		③				
		③				
		③				
		③				
		③				
	単位数小計	③				
	5	③				
	④建築設備 (2単位以上)	④	建築設備Ⅰ	3	必修	2
		④	建築設備Ⅱ	3	必修	2
		④	建築設備演習	3	必修	1
		④				
		④				
		④				
		④				
		④				
単位数小計	単位数小計	④				
23	5	④				
⑤～⑦ 構造力学,	⑤構造力学 (4単位以上)	⑤	建築構造力学Ⅰ	2	必修	2
		⑤	建築構造力学Ⅱ	2	必修	2

建築一般構造又は建築材料 実務0～2年 (6単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)		⑤	建築構造力学Ⅰ 演習	2	必修	1
		⑤	建築構造力学Ⅱ 演習	2	必修	1
		⑤	建築地盤工学	3	必修	2
		⑤	建築耐震設計	3	必修	2
	単位数小計	⑤				
	10	⑤				
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	⑥	鋼構造	3	必修	2
		⑥	鉄筋コンクリート構造	3	必修	2
		⑥	建築構法	2	必修	2
		⑥				
		⑥				
		⑥				
		⑥				
	単位数小計	⑥				
	6	⑥				
	⑦建築材料 (2単位以上)	⑦	建築材料	2	必修	2
		⑦	建築構造材料実験	3	必修	1
		⑦				
		⑦				
		⑦				
		⑦				
		⑦				
	単位数小計	⑦				
19	3	⑦				
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	⑧	建築施工	2～3	選択	2
		⑧				
		⑧				
		⑧				
2	2	⑧				
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	⑨	建築法規	2～3	選択	1
		⑨				
		⑨				
		⑨				
1	1	⑨				
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	⑩	建築ゼミナール	1	必修	2
		⑩	設計基礎Ⅰ	1	必修	2
		⑩	設計基礎Ⅱ	1	必修	2
		⑩	建築エネルギーマネジメント	2	必修	2
		⑩	プロダクトマネジメント論	3	必修	2
		⑩	工芸デザイン製図Ⅱ	3	選択	2
		⑩	プロダクトマネジメント演習	3	選択	1
		⑩	プロダクトコーディネイト学	3	選択	2
		⑩	都市計画史	3	必修	2
		⑩	地域計画	3	必修	2
		⑩	インタラクティブデザイン学	2	選択	2
		⑩	インタラクティブデザイン学演習	2	選択	1
		⑩	美術・デザイン史	3	選択	2
24	24	⑩				
58 (20単位以上)	58 (30単位以上)	①～⑨の単位数合計				
82	82	総単位数(①～⑩の単位数合計)				

(20～40単位以上)	(40～60単位以上)			
-------------	-------------	--	--	--

表(4)-1-2 信州大学工学部建築学科 工芸デザインプログラム における認定科目 (平成 31 年度入学用)

指定科目の分類 (単位数)		指定科目として申請する開講科目				
二級・木造	一級	分類 番号	科目名	履修学年	必修・選択	単位 数
①建築設計 製図 実務0～2年 (5単位以上) 実務3～5年 (3単位以上) 単位数小計	①建築設計 製図 (7単位以上) 単位数小計	①	設計基礎演習	1	必修	1
		①	建築・デザイン工学設計製図Ⅰ	2	必修	2
		①	建築・デザイン工学設計製図Ⅱ	2	必修	2
		①	建築・デザイン工学設計製図Ⅲ	4	選択	2
		①	建築設計製図Ⅰ	3	選択	2
		①	建築設計製図Ⅱ	3	選択	2
		①	工芸デザイン製図Ⅰ	3	必修	2
		①				
		①				
13	13	①				
②～④ 建築計画, 建築環境工 学又は建築 設備 実務0～2年 (7単位以上) 実務3～5年 (2単位以上) 単位数小計	②建築計画 (7単位以上) 単位数小計	②	建築計画	2	必修	2
		②	日本建築史	2	必修	2
		②	保存再生論	3	必修	2
		②	西洋建築史	2	選択	2
		②	デザイン心理	3	必修	2
		②	現代デザイン学	3	必修	2
		②	現代デザイン学演習	3	必修	1
		②				
		②				
		②				
	13	②				
	③建築環境 工学 (2単位以上) 単位数小計	③	建築環境工学Ⅰ	2	必修	2
		③	建築環境工学Ⅱ	2	必修	2
		③	建築環境工学実験	3	選択	1
		③				
		③				
		③				
		③				
		③				
	5	③				
	④建築設備 (2単位以上) 単位数小計	④	建築設備Ⅰ	3	必修	2
		④	建築設備Ⅱ	3	必修	2
		④	建築設備演習	3	選択	1
		④				
		④				
		④				
		④				
23	5	④				
⑤～⑦ 構造力学,	⑤構造力学 (4単位以上)	⑤	建築構造力学Ⅰ	2	必修	2
		⑤	建築構造力学Ⅱ	2	必修	2

建築一般構造又は建築材料 実務0～2年 (6単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)		⑤	建築構造力学Ⅰ 演習	2	必修	1
		⑤	建築構造力学Ⅱ 演習	2	必修	1
		⑤	建築地盤工学	3	選択	2
		⑤	建築耐震設計	3	選択	2
	単位数小計	⑤				
	10	⑤				
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	⑥	鋼構造	3	必修	2
		⑥	鉄筋コンクリート構造	3	必修	2
		⑥	建築構法	2	選択	2
		⑥				
		⑥				
		⑥				
		⑥				
	単位数小計	⑥				
	6	⑥				
	⑦建築材料 (2単位以上)	⑦	建築材料	2	必修	2
		⑦	建築構造材料実験	3	選択	1
		⑦				
		⑦				
		⑦				
		⑦				
		⑦				
	単位数小計	⑦				
19	3	⑦				
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	⑧	建築施工	2～3	選択	2
		⑧				
		⑧				
		⑧				
2	2	⑧				
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	⑨	建築法規	2～3	選択	1
		⑨				
		⑨				
		⑨				
1	1	⑨				
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	⑩	建築ゼミナール	1	必修	2
		⑩	設計基礎Ⅰ	1	必修	2
		⑩	設計基礎Ⅱ	1	必修	2
		⑩	建築エネルギーマネジメント	2	必修	2
		⑩	プロダクトマネジメント論	3	必修	2
		⑩	工芸デザイン製図Ⅱ	3	必修	2
		⑩	プロダクトマネジメント演習	3	必修	1
		⑩	プロダクトコーディネイト学	3	必修	2
		⑩	都市計画史	3	選択	2
		⑩	地域計画	3	選択	2
		⑩	インタラクションデザイン学	2	必修	2
		⑩	インタラクションデザイン学演習	2	必修	1
		⑩	美術・デザイン史	3	必修	2
24	24	⑩				
58 (20単位以上)	58 (30単位以上)	①～⑨の単位数合計				
82	82	総単位数(①～⑩の単位数合計)				

(20～40単位以上)	(40～60単位以上)			
-------------	-------------	--	--	--

(4)-2 大学院での実務経験期間の認定

実務経験2年間のうち、1年間を大学院の単位取得に置き換えたい場合は、表(4)-2-2の各分野から1つを選び、表(4)-2-1に示す単位を修得する必要があります。

表(4)-2-1 実務経験を1年に短縮する場合の必要単位数

必要単位数 (実務1年)	インターンシップの単位数	インターンシップ関連科目の単位数	
		講義	実験・演習
15単位以上	4単位以上（期間1ヶ月程度）	8単位以下	8単位以下

表(4)-2-2 信州大学総合理工学研究科 工学専攻建築学分野の場合の指定科目
(平成31年度大学院入学者の場合)

分野	指定科目	単位数			
		インターンシップ	講義	演習	実験
意匠	建築意匠設計インターンシップ	4			
	建築保存再生設計インターンシップ	4			
	建築意匠設計学演習			4	
	建築保存再生設計学演習			4	
	空間構造設計学演習			4	
	建築意匠設計学		2		
	建築保存再生設計学		2		
	空間構造設計学		2		
	都市空間デザイン学		2		
構造	建築構造設計インターンシップ	4			
	建築構造設計学演習			4	
	建築構造設計学実験				4
	建築構造設計学Ⅰ		2		
	建築構造設計学Ⅱ		2		
	建築構造設計学Ⅲ		2		
設備	建築設備設計インターンシップ	4			
	建築環境設計学演習			4	
	建築環境設計学実験				4
	建築設備設計学演習			4	
	建築設備設計学実験				4
	建築設備設計学		2		
	建築環境設計学		2		

注意事項

- (1)分野（意匠、構造、設備のうちどれか）を決めて、その中で受講して下さい。複数の分野を渡って受講をして必要単位数を満たしても実務経験資格の認定にはなりません。
- (2)インターンシップを受講する学生は、保険（学生研究災害障害保険および学研災付帯賠償責任保険）にあらかじめ加入して下さい。保険に加入していない学生は受講できません。
- (3)インターンシップを受講する学生は、受講登録前に指導教員にご相談下さい。

8. 授業料免除及び奨学金

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者ならびに風水害等の災害を受け授

業料の納付が困難であると認められる者及び特別の事情のある者には、授業料の全部または一部を免除することができます。

成績優秀者に対して、半期の授業料免除の制度があります。今のところ対象学生は4年生（1～3年生までの成績を評価）、大学院修士課程2年生（大学院1年生の成績・業績を評価）。対象者の選出は大学側で行いますので、希望者が申請する必要はありません。

奨学金としては、日本学生支援機構による奨学金が一般的であり、成績や経済状況などの制限が厳しい無利子の奨学金と比較的制限が緩い利息付きの奨学金があります。そのほかにも企業による奨学金も多数あり、貸与型、給付型の奨学金も多数あります。また海外留学用奨学金などもあります。キャンパス情報システムなどの情報をチェックしてください。

奨学金の返還免除申請も可能ですが、学業成績が優秀であることが条件となっています。この窓口は学務係です。大学院修士課程で受け取った奨学金の場合は、成績優秀者（数名）はその一部を返済免除する制度があります。返済免除申請の時期は修士2年生の1月ごろです。詳細は、指導教員におたずね下さい。

9. 他大学等との単位互換について

詳細は、共通教育履修案内を参照して下さい。

10. 英検、TOEIC、TOEFLの単位認定について

詳細は、共通教育履修案内を参照して下さい。

11. 研究室紹介

詳細は、信州大学工学部バーチャル・オープンラボを参照して下さい。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/labo/teacher.html>